

柔道しずおか

令和5年3月 静岡県柔道協会発行

事務局 〒422-8004 静岡市駿河区国吉田5-1-1 公益財団法人 静岡県体育協会内 静岡県柔道協会事務局
TEL 090-1832-9084 FAX 055-988-3611
メール shizuokajudo5803@yahoo.co.jp

【巻頭言】

「雑感2」

静岡県柔道協会副会長 八段 高田和夫



高田勝之先生から東部支部幹事長を受け継いで10年になりました。

こうして無事ここまでこれたのは、協会の皆様と特に東部の先生方の支えがあったからと深く感謝しています。

この巻頭言を執筆するにあたり、日頃思うところの雑感を再び書くことにしました。

世界情勢を見るとコロナ感染症が4年目を迎え、世界の感染者は6億人を超えました。

終息する気配はなく、世界の社会経済の混乱など悪影響を及ぼしています。勿論、令和5年度の協会行事にも悪影響を及ぼすことは、間違いありません。また、ロシアがウクライナに

侵攻し、多くの犠牲者が出ています。侵攻が長引き、核の威嚇、燃料価格の高騰、食料危機など世界の緊張が高まっています。

国内・県内の情勢を見ると、安倍総理が銃撃され、死亡するという衝撃的な事件が起き、知床観光船の沈没事故・台風による県中部・西部の風水害など暗いことが多かった気がします。令和5年度は、少しでも明るい兆しが現れることを願っています。

さて、これからの柔道界を考えると、山下全柔連会長が2020年に「変えるべきことは変え、変えてはならないことは守り抜く。」という基本方針のもと「子供たちが柔道衣を担いで、道場に行くことにある柔道界」を目指し、「人づくり・人間教育の更なる拡充」と「競技力向上」の2つの柱を中心に各種事業を展開していくと発表されました。

競技力向上の面からみれば、東京2020オリンピックで男女合わせて11個（金9個は史上最多）を獲得し、全日本柔道チームの強化策が成功していると言えるでしょう。

しかし、柔道ピラミッドの底辺を支える小中高の柔道人口の減少が止まりません。まず、考えられる原因は、『柔道に魅力がないこと、大怪我の心配から親が反対する、次の受け口がない』などがあげられます。また、柔道の価値観が低くなったことも大きな原因かもしれません。では、どうしたら柔道人口が増えるのかを考えるに、今までのような柔道指導（勝利至上主義・指導者の自己満足）では、「柔道を習いたい」という子供の心には響かないのではと思います。

親が柔道に求めるものとして、「挨拶ができる、礼儀正しくなる、健康になる、精神力がつく」などを挙げていますが、それは他の武道やスポーツすべての根幹であって、柔道だけに特化したものではないのです。「柔道を習ったら、こんな良いこと見つかったよ。」と思わせるような感動が魅力となって、

子供や親にアピールすることに繋がるのではと考えています。

指導者の意識改革として、まず親が柔道に求めるものは当然の指導対象ですが、まず「柔道が楽しい。」と子供たちが思うことが一番で、勝負は二の次に考える必要があります。

一つの提案ですが、教え子の家庭を取り込んだ対策として、たとえば保護者との交換柔道ノート、パパママ柔道教室、ジジババ転び方教室、柔道エアロビクス、若手ママの託児付柔道教室などはどうでしょうか。（すでに実行している団体もあります。）

柔道に携わる私達は、柔道人口向上に対する方策を多方面から危機感を持って考える時期がとつくに来ていることを再認識しましょう。

以上、取り留めのない雑感でした。

これからも静岡県柔道協会がさらに発展するよう御協力をお願いいたします。

大会報告

第77回国民体育大会柔道競技 いちご一会とちぎ国体

期間 令和4年10月8日(土)〜10月10日(月)
会場 ユウケイ武道館(栃木県総合運動公園武道館)

少年男子の部

少年男子チーム

東海ブロック予選1位通過

監督 渡部直樹 静岡学園高校

校教諭

コーチ 松野 立 湖西高校教諭
トレーナー 赤池 理 アカイケ鍼灸接骨院

先鋒 小林勇斗(3年) 東海大静岡翔洋高校

次鋒 宮本 壮(2年) 東海大静岡翔洋高校

中堅 板東 新(3年) 加藤学園高校

副将 沖山 智(2年) 静岡学園高校

大将 岡本剛道(3年) 加藤学園高校

少年男子は全国より各ブロックを勝ち抜いた17県と開催地の栃木県を含めた18県でのトーナメント方式によって開催されました。本県においては東海ブロック予選枠が1県という厳しい中で勝ち抜き、1位通過での本大会出場となりました。

チームは3年生が3名、2年生が2名。東海ブロック予選で

は5名の総合力でギリギリの戦いをもたして勝ち上がり、そのチームワークを持って本大会に臨みました。静岡県柔道協会よりロゴマークの入った柔道衣を贈呈して頂き、選手は改めて強い気持ちで静岡県の代表を誇りに戦うことができました。試合結果は以下のとおりです。

少年男子二回戦

静岡県 0-2 福岡県

☆先鋒

小林勇斗×(引き分け)×小園輝希

小林(右組み)小園(右組み)の相四つ。小林が開始から積極的に攻めるも相手もうまくかわしている状態。2分過ぎに相手に消極的指導が与えられる。その後こう着状態が続く両者に指導。残り時間30秒を切ったところで相手の袖釣り込みを後ろに回り込み、上手く返す。主審は技ありの判定、映像確認により取り消されてしまう。最後まで攻め続けるも引き分け。惜しい試合であったがチームに良い流れをもたらした。

☆次鋒

宮本 壮(長本)○竹市裕亮
宮本(左組み)竹市(右組み)

のケンカ四つ。竹市は全国総体2年連続2位、全日本強化選手にも選出されている選手。開始から積極的に前へ出て手数を増やし相手の攻撃を封じていたが、2分過ぎ場外際、巴投げで技ありを先取される。その後も前へ出るも、残り30秒肩車で技ありを奪われ合技一本。0-1でリードを許す。

☆中堅

板東 新×(引き分け)×山田伊織

板東(右組み)山田(右組み)の相四つ。開始から積極的に前へ出るも相手が組み合わず片手で技を仕掛ける。開始50秒板東が組み合わないという判断で指導が与えられる。この不可解な指導は後ほどの展開を大きく左右した。その後も相手の組みぎわの技を受け指導2が与えられる。残り1分相手が引き込み指導。その後も攻め続け残り7秒で相手に指導2。最後まで攻めるも時間終了。板東は最後まで攻め続けただけに痛い引き分けとなった。0-1のまま副将戦。

☆副将

沖山 智(技あり)○山城航雅

沖山(左組み)山城(左組み)の相四つ。開始1分30秒両者に指導。その後、沖山が良い組み手で攻め続けるも相手の受けも強く突破口が作れない。残り10秒を切ったところで一瞬相手の組み手になり内股を受けて技ありを奪われる。良い展開だっただけに残念な敗戦となった。

た。チームも0-2と敗退が決まってしまった。

☆大将

岡本剛道×(引き分け)×熊谷諒也

岡本(右組み)熊谷(右組み)の相四つ。開始1分過ぎに両者ともに指導。岡本が積極的に技を掛けるもうまくさばかれ時間が経過する。残り5秒で入った大外刈りは技ありに近い効果があったがノースコア。大将戦は引き分けに終わり、0-2で敗戦。

《総括》

少年男子チームは選手全員がR4全国総体(愛媛県開催)に出場しており、全国大会の雰囲気にならされることはなく、3年生と2年生が融合し、性格も皆真面目で柔道に対して熱心に取り組みチームでした。特に、東海ブロック予選は1県のみしか出場資格がない中で愛知県と岐阜県に勝利し三重県と引き分けの2勝1分け。三重県と同率となり勝ちの内容差で出場権をもぎ取りました。苦しい試合展開の中、選手一人一人がチームのために声を張り上げ、お互いを鼓舞していた姿は印象的でした。

本大会には強い気持ちで挑みましたが、強豪福岡県に敗退し、悔しい結果となりました。選手は、コロナ禍で様々な活動を制限される中、静岡県代表という誇りを胸に、素晴らしい

勇姿を見せてくれました。来年度の少年男子は全国47都道府県すべてが出場できます。今回、2年生が2名出場していることもあり、来年度の少年男子は上位を狙ってのチーム作り強化を図っていく所存です。最後になりましたが、会長をはじめ協会関係者の支援・激励に御礼を申し上げますとともに、次年度の国体での活躍を誓い、大会結果の報告といたします。静岡県少年男子監督 渡部 直樹

成年男子の部

成年男子チーム

監督 渡部成也 静岡県警察

コーチ 小椋俊彦 静岡県警察

トレーナー 八代直也 ソリク

先鋒 芹沢翔哉 静岡県警察
次鋒 多田陽平 静岡県警察



中堅 齋藤光星 静岡県警察
副将 小林悠輔 渡邊電設
大将 米山竜生 静岡県警察

成年男子は全国47都道府県全てが出場し、トーナメント方式で開催されました。本県の出場選手は静岡県警察から4人、実業団1人のチーム。『先鋒』は日本大学出身で粘り強い静岡県警察、芹沢翔哉。『次鋒』は東海大学出身でムードメーカーの静岡県警察、多田陽平。『中堅』は早稲田大学出身でIT柔道の静岡県警察、齋藤光星。『副将』は筑波大学出身で、唯一の実業団所属で静岡のエース、チーム

キャプテン小林悠輔。『大将』は東海大学出身で若手ホープで暴れん坊の静岡県警察、米山竜生の5人で構成。静岡県柔道協会より静岡県柔道国体チームの柔道衣を贈呈していただき、野田会長以下スタッフと共に、チーム静岡で戦いました。

【成年男子一回戦】

静岡県 3-0 沖縄県

★先鋒

芹沢翔哉○(崩襲) 新垣 伸

芹沢(右組) 新垣(右組)の相四つ。芹沢は背負投や小内刈、新垣は手足が長く内股や足車で攻める。3分過ぎ、芹沢が相手の隙を見逃さず、寝技の腹包みで攻撃し、そのまま崩襲姿固で一本勝ち。チームに勢いをつける一点を先取する。

★次鋒

多田陽平○(僅差) 小橋川元輝

多田(右組) 小橋川(左組)のケンカ四つ。多田は大内刈や捨身技、小橋川は両袖を持ちながらの内股等で攻める。開始1分頃消極的な小橋川に(指導1)。

多田は常に前に出て攻め込む姿勢を崩さず、3分過ぎにも小橋川に(指導2)。終始攻め続けた多田の勝利。多田の僅差勝ちで2勝リードする。

★中堅

齋藤光星×(引き分け) ×崎山寛至

齋藤(左組) 崎山(左組)の相四つ。齋藤は一本背負投や内股、崎山は日本大学出身で力強く体落や大内刈で技の応酬が続く。その後もお互い決め手がなく本戦が終了。引き分け。2勝リードのまま副将戦となる。

★副将

小林悠輔×(引き分け) ×崎原永佑

小林(左組) 崎原(右組)のケンカ四つ。小林は巧みな組手で常に有利な体勢で大外刈や大内刈、崎原はパワー系柔道で低い体落等により、技の応酬が続く。終始小林のペースではあったものの決め手がなく引き分け。静岡の初戦突破が決まる。

★大将

米山竜生 ○(大内刈) 平良賢人

米山(左組) 平良(左組)の相四つ。米山は始めから積極的技を仕掛け、平良は防戦一方。1分11秒に平良が下がったところに米山が大内刈を仕掛け

て見事な一本勝ちで試合終了。3-0で2回戦進出を決める。

【成年男子二回戦】

静岡県 3-1 埼玉

★先鋒

芹沢翔哉○(僅差) 宮本拓実

芹沢(右組) 宮本(右組)の相四つ。宮本は講道館杯3位の実績のある選手で実力者。お互い攻め合うが1分過ぎに、宮本に片襟の反則で指導。その後はスタミナのある芹沢が攻め続け、3分過ぎに消極的な宮本に指導2で、そのままタイムアップ。貴重な1点を先取する。

★次鋒

多田陽平(反則勝) ○等々力義英

多田(右組) 等々力(右組)の相四つ。多田は大内刈や捨身技、等々力は背負投を中心で、お互い攻め合う。多田が背部を持ち引き付け捨身技を仕掛ければ、等々力は背負投などで返す。お互い技が止まったところの1分過ぎにお互いに指導、3分過ぎたところで、偽装攻撃の多田に指導。そのまま終わるかと思われた3分58秒で消極的な多田に指導3の反則負けで試合終了。逆転を許し中堅戦へ進む。

★中堅

齋藤光星×(引き分け) ×前田宗哉

齋藤(左組) 前田(右組)のケンカ四つ。前田は、全日本選手権大会の常連で実力者。齋藤は内股や一本背負投、前田は内股、大内刈や大外刈で攻める。

齋藤が攻めれば、前田も攻める。中盤地力ある前田が攻め立てるが、下がらず齋藤も粘り強く戦いタイムアップ。貴重な引き分けで1-1の内容差負けは変わらず副将戦へ進む。

★副将

小林悠輔○(反則勝) 梅野雅崇

小林(左組) 梅野(左組)の相四つ。小林は大内刈や大外刈、梅野は足技を中心に攻める。開始40秒過ぎに下がる梅野に場外指導。その後も小林ペーシング。2分梅野に指導2。更に出る小林。梅野は防戦一方で組手争いが続き、2分56秒、消極的な梅野に指導3で試合終了。試合巧者の小林の勝利。流れを寄せる1点を挽き取り、2-1で1点リードしたまま大将戦へ進む。

★大将

米山竜生○(接り) 江原拓巳

米山(左組) 江原(左組)の相四つ。米山は大内刈や小外刈、江原は内股や巴投で攻める。後がない埼玉県は、江原が攻めようとするが、米山は冷静に応戦する。2分を過ぎたところで、江原が大外刈を仕掛けたところに米山が裏投げで切り返し、技ありを先取する。その後

【成年男子三回戦】

静岡県 0-3 兵庫県

★先鋒

芹沢翔哉 小内返 ○納庄兵芽

芹沢(右組) 納庄(左組)のケンカ四つ。納庄は学生日本一の実績を持つ選手で実力者。お互いで攻め合うが1分過ぎに、消極的な芹沢に指導。その後も納庄が優位に試合を進め、2分半過ぎたところで、芹沢が偽装攻撃で指導。追い詰められた芹沢が3分41秒に小内刈を仕掛けたところで納庄が小内返で一本。1点を先取される。

★次鋒

多田陽平(接り) ○松山葵偉

多田(右組) 松山(右組)の相四つ。多田は大内刈、捨身技や大外刈、松山は背負投、内股や大外刈でお互いに攻め合う。多田が背部を持ち、引き付け捨て身を仕掛ければ、松山は大外刈などで返す。1分過ぎに多田に偽装攻撃の指導、2分半過ぎにも偽装攻撃の多田に指導2。そのまま終わるかと思われた終了間際に多田が掛けた大外刈を返され、技ありを奪われ試合終了。0-2で中堅戦へ進む。

★中堅

齋藤光星×(引き分け) ×渋川大地也

齋藤(左組) 渋川(右組)のケンカ四つ。齋藤は内股や一本背負投、渋川は大外刈等で攻める。終始お互い攻め合うが、決め手なく試合終了。引き分けで取り返すことができず、0-2

のビハインドは変わらず副将戦へ進む。

★副将

小林悠輔×(引き分け)×辻本拓記

小林(左組)辻本(右組)のケンカ四つ。小林は大内刈や大外刈、辻本は背負投を中心に攻める。組手で上手い小林、組際の技の仕掛けが上手い辻本。後がない静岡県チーム、小林はポイントを取りに仕掛けるが、辻本に上手く捌かれて、お互い決め手なく試合終了。引き分けの0-2で静岡県の敗退が決まり大将戦へ進む。

★大将

米山竜生 崩上西方面 ○小川竜昂

米山(左組)小川(左組)の相四つ。開始早々、小川が前に出て攻めてきたところ米山がうつ伏せに倒れ、そのまま小川に三角で返され、崩上西方面一本。39秒での決着だった。兵庫県に0対3で完敗。静岡県チームの敗退でベスト16で終了。

《総括》

本県選手は比較的若いチームで、柔道以外の部分でも雰囲気が良いチームでした。本大会では、沖縄県に対しては圧倒的に制し、優勝候補の埼玉県相手には辛勝、強敵の兵庫県には完敗ではありましたが、第9位(ベスト16)と結果的にも内容的にも今後に大きくつながる試合でした。反面、反省点としては決定打(投技・寝技)の完成度が

未熟であると感じました。現在のルールに適合するために、投技・寝技ともに正確性を身につけ、最後まで戦い抜く圧倒的な持久力(スタミナ)を付けることが重要です。今後は技の正確性を身につける練習を取り入れ、101%の稽古に励み、本番では100%の実力を発揮できるように県の合宿も増やしながら強化していく所存です。今回出場した選手はこの経験を生かし、ここからの柔道人生において、ひとつの糧として、次の目標に向かって前進していくことを望みます。最後になりますが、新型コロナウイルスの影響で3年振りで開催され国体に出場した選手に対して、皆様から熱い声援、激励をいただいたことに心から感謝を申し上げます。

静岡県成年男子監督 渡部成也



第64回 静岡県柔道祭開催

令和4年11月3日(木・祝) 午前10時15分開始 静岡県武道館

新型コロナウイルスの影響で2年ぶりに再開された前回に続き、本年度も無事開催された。しかしながらまたにわかに新型コロナウイルスの感染状況が悪化し、無観客での開催となった。また、同様の理由により小学生の部、中学生の部、一般の部の支部予選が行われず、直接県大会という異例の大会となった。開会式も選手宣誓などは行わず簡易的な段取りで行われたあと、恒例の柔道協会表彰式が行われ、次の方々が表彰された。

《特別功労賞》

田中 秀幸

《永年功労賞》

根木谷信一

永田 親則

《優秀団体賞》

加藤学園高等学校

第71回 全国高等学校柔道大会 男子団体 第3位

《優秀選手賞》

板東 新(加藤学園高等学校)

第71回 全国高等学校柔道大会 男子個人 81kg級 第3位

岡本 剛道(加藤学園高等学校)

第71回 全国高等学校柔道大会

会 男子個人 100kg 超級 第3位

渡邊 美海(三島市立中郷中学校)

第53回 全国中学校柔道大会 女子個人 70kg 超級 第3位

門倉 寛太(静岡学園中学校)

第53回 全国中学校柔道大会 男子個人 66kg 級 第3位

石井 克明(静岡学園中学校)

第53回 全国中学校柔道大会 男子個人 90kg 級 第3位

村松 駿(静岡県立三島農陵高等学校)

第53回 全国高等学校定時制通信制柔道大会 男子 65kg 級 第2位

中山 晟汰(静岡県立浜松工業高等学校)

第53回 全国高等学校定時制通信制柔道大会 男子 75kg 級 第3位

鈴木 華(鹿島学園高等学校)

第53回 全国高等学校定時制通信制柔道大会 女子 63kg 級 第3位

第64回 静岡県柔道祭成績

《小学生の部》

優勝…育誠館

2位…静岡東部柔道クラブ

3位…柔好会

3位…富士市柔道会

《中学男子の部》

優勝…静岡学園中学校

2位…浜松市立笠井中学校

3位…育誠館

3位…伊豆の国市立長岡中学校

《中学女子の部》

優勝…藤枝順心中学校

2位…藤枝柔道倶楽部

3位…静岡市立大里中学校

3位…東海大学付属静岡翔洋高等学校中等部

《高校男子の部》

優勝…静岡学園高等学校

2位…加藤学園高等学校

3位…日本大学三島高等学校

3位…東海大学付属静岡翔洋高等学校

《高校女子の部》

優勝…藤枝順心中学校

2位…東海大学付属静岡翔洋高等学校

3位…静岡県立浜松商業高等学校

3位…静岡県立浜松西高等学校

《一般の部》

優勝…静岡県警察

2位…静岡産業大学A

3位…静岡産業大学B

3位…静岡錬心館岡川道場

《優秀選手》

小学生の部

・杉山 泰資(育誠館)

・渡部龍ノ臣(静岡東部柔道クラブ)



中学男子の部
 ・高岡 颯人 (静岡学園中学校)
 ・末岡あきら (浜松立笠井中学校)
 中学女子の部
 ・帯金 柚良 (藤枝順心中学校)
 ・水野 那菜 (藤枝柔道倶楽部)
 高校男子の部
 ・沖山 智 (静岡学園高等学校)

・内山久羽吾 (加藤学園高等学校)
 高校女子の部
 ・牧園 羽菜 (藤枝順心高等学校)
 ・城本 綾乃 (東海大学付属静岡翔洋高等学校)
 一般の部
 ・松坂 樹 (静岡県警察)
 ・堀内ジュンジ (静岡産業大学A)

各種大会の報告

【小中学生】

第42回 静岡県少年柔道団体選手権大会

(全国少年柔道大会 静岡県予選)
 令和4年4月17日(日)
 東海大学静岡翔洋高等学校 柔道場

- 1位 育誠館
 - 2位 静岡東部柔道クラブ
 - 3位 和道場
- 藤枝柔道倶楽部

第19回 静岡県小学生学年別柔道大会

令和4年5月15日(日)
 静岡県武道館

- 男子5年45kg級
 - 1位 安齋 俊貴 (神土館)
 - 2位 田中 遼介 (三島柔道会)
 - 3位 角田 協大 (育誠館)
 - 男子5年45kg超級
 - 1位 斎藤 楽太 (柔好会)
 - 男子5年45kg超級
 - 1位 清水 雅輝 (国士塾)
 - 2位 湯沢 乙文 (富士市柔道会)
 - 3位 大橋 和空 (SSU)
 - 男子6年45kg級
 - 1位 渡部龍ノ臣 (東部柔ク)
 - 2位 富田 連 (柔好会)
 - 3位 山本 翔煌 (柔好会)
 - 男子6年65kg級
 - 1位 杉山 泰資 (育誠館)
 - 2位 清水 楽 (おそなが道場)
 - 3位 川瀬 幸来 (おそなが道場)
- 野澤倫太郎 (小山町柔道連盟)

- 男子6年65kg超級
 - 1位 横野 慶多 (清水柔ク)
 - 2位 境野 幹大 (富士市柔道会)
 - 3位 長谷川虎十之介 (港柔道教室)
- 女子5年40kg級
 - 1位 加藤 優心 (東部柔ク)
 - 2位 山河 美羽 (NPO武道学舎)
 - 3位 志村 彩葉 (沼津柔道会)

第42回 全国少年柔道大会

令和4年5月4日(水) 合同錬成
 令和4年5月5日(木) 試合錬成
 講道館大道場

- 女子5年40kg超級
 - 1位 杉本 奈優 (育誠館)
 - 2位 通場 真尋 (NPO武道学舎)
 - 3位 佐野 陽咲 (東部柔ク)
- 女子6年40kg級
 - 1位 鈴木 楓花 (清水町柔道会)
 - 2位 伊東 柚葉 (富士柔道教室)
 - 3位 高野 楓 (柔好会)

第42回 全国少年柔道大会

- 女子6年55kg級
 - 1位 倉田くるみ (育誠館)
 - 2位 山田 海優 (田代道場)
 - 3位 金 孝穂 (おそなが道場)
- 女子6年55kg超級
 - 1位 白井 悠心 (おそなが道場)
 - 2位 大城 星夢 (浜北柔道)
 - 3位 角ヶ谷 遥 (浜北柔道)

宇治柔道会 (京都)

①-1 育誠館

第11回 静岡県柔道協会会長杯中学校柔道大会

令和4年5月4日(水)
 静岡県武道館

- 男子団体戦
 - 1位 静岡学園中学校
 - 2位 東海大学付属静岡翔洋高等学校中等部
 - 3位 湖西市立新居中学校
- 女子団体戦
 - 1位 藤枝順心中学校
 - 2位 浜松市立北浜東部中学校
 - 3位 東海大学付属静岡翔洋高等学校中等部

静岡県中学校総合体育大会柔道競技の部

令和4年7月26日(火)、27日(水)
 静岡県武道館

- 男子団体戦
 - 1位 静岡学園中
 - 2位 静岡翔洋中等部
 - 3位 笠井中
- 女子団体戦
 - 1位 藤枝順心中
 - 2位 北浜東部中
 - 3位 市立沼津高中等部

男子個人戦

- 50kg級
 - 1位 佐野 迅羽 (静岡翔洋中)
 - 2位 中谷 脩真 (桜が丘中)
 - 3位 大城 脩也 (可美中)
- 55kg級
 - 加藤 愛都 (長岡中)

長澤 拓海 (静岡学園) 1回戦敗退	81kg級 板東 新 (加藤学園ベスト8敢闘賞)	無差別級 沖山 智 (静岡学園) 2回戦敗退	●女子個人戦 48kg級 牧園 羽菜 (藤枝順心) 3回戦敗退	52kg級 原田詩依菜 (藤枝順心) 2回戦敗退	57kg級 夏目彩夢奈 (聖隷クリストファー) 1回戦敗退	63kg級 近藤 小晴 (藤枝順心) 3回戦敗退	無差別級 北尾 美樹 (東海大翔洋) 2回戦敗退
--------------------	--------------------------	------------------------	---------------------------------	--------------------------	-------------------------------	--------------------------	--------------------------

令和4年度第70回静岡県高等学校総合体育大会柔道競技

令和4年5月14日(土)、28日(土)

●女子団体 優勝 藤枝順心	●女子個人戦 48kg級 優勝 牧園 羽菜 (藤枝順心)	52kg級 優勝 山本 あみ (加藤学園)	57kg級 優勝 小山 結愛 (藤枝順心)	63kg級 優勝 清水 琴莉 (浜松商業)	70kg級 優勝 安竹 克海 (東海大翔洋)	78kg級 優勝 飯塚玲生良 (市立沼津)	78kg超級 優勝 石塚さつき (藤枝順心)
---------------	------------------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	------------------------	-----------------------	------------------------

第69回東海高等学校総合体育大会柔道競技

令和4年6月18日(土)、19日(日)

●女子個人戦 48kg級 優勝 牧園 羽菜 (藤枝順心) 1位	新夕 志桜 (藤枝順心) 2位	52kg級 山本 あみ (加藤学園) 3位	小林 佳奈 (東海大翔洋) 3位	57kg級 小山 結愛 (藤枝順心) 1位	原田詩依菜 (藤枝順心) 3位	70kg級 安竹 克海 (東海大翔洋) 3位	78kg級 中道 咲桜 (東海大翔洋) 3位	飯塚 玲生良 (市立沼津) 3位	78kg超級 石塚 さつき (藤枝順心) 3位
---------------------------------	-----------------	-----------------------	------------------	-----------------------	-----------------	------------------------	------------------------	------------------	-------------------------

令和4年度全国高等学校総合体育大会

令和4年8月6日(土)～10日(水)

岡本 剛道 (加藤学園) 3位	●女子団体 優勝 藤枝順心 1回戦敗退	●女子個人戦 48kg級 優勝 牧園 羽菜 (藤枝順心) ベスト8	52kg級 山本 あみ (加藤学園) 3回戦敗退	57kg級 小山 結愛 (藤枝順心) 2回戦敗退	63kg級 清水 琴莉 (浜松商業) 1回戦敗退	70kg級 安竹 克海 (東海大翔洋) ベスト8	78kg級 飯塚玲生良 (市立沼津) 1回戦敗退	78kg超級 石塚さつき (藤枝順心) 1回戦敗退
-----------------	---------------------	-----------------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	---------------------------

令和4年度全国高等学校校定時制通信制体育大会

令和4年8月7日(日)

女子63kg超級 鈴木 華 (鹿島浜松1年) 3位	テシヤダ メリッサ (富士) 1回戦敗退	国民体育大会東海ブロック大会 令和4年8月21日(日) 大垣市武道館 ●少年男子 1位 (本戦出場) 監督…渡部 直樹 (静岡学園高等学校教諭)	先鋒…小林 勇斗 (東海大学付属静岡翔洋高等学校)	次鋒…宮本 壮 (東海大学付属静岡翔洋高等学校)	中堅…板東 新 (加藤学園高等学校)	副将…沖山 智 (静岡学園高等学校)	大将…岡本 剛道 (加藤学園高等学校)	●女子 3位 監督…古内 千夏 (東海大学付属静岡翔洋高等学校)	先鋒…小林 佳奈 (東海大学付属静岡翔洋高等学校)	次鋒…渋谷 舞 (環太平洋大学)	中堅…安竹 克海 (東海大学付属静岡翔洋高等学校)	副将…近藤 小晴 (藤枝順心高等学校)	大将…米川 明穂 (筑波大学)
---------------------------	----------------------	---	---------------------------	--------------------------	--------------------	--------------------	---------------------	----------------------------------	---------------------------	------------------	---------------------------	---------------------	-----------------

第4回文武両道杯全国高校柔道大会

令和4年12月18日(日)

●男子団体戦 優勝 浜松西高 2位	●女子団体 優勝 浜松西高 予選リーグ敗退	予選リーグ敗退
-------------------	-----------------------	---------

第45回全国高等学校柔道選手権大会静岡県予選大会(男女個人戦)

令和5年1月15日(日)

静岡県武道館

・男子

60kg級

優勝 栗田 昊輝(静岡学園)

66kg級

優勝 山本 蓮心(日大三島)

73kg級

優勝 宮本 壮(東海大翔洋)

81kg級

優勝 内山久羽吾(加藤学園)

無差別級

優勝 沖山 智(静岡学園)

・女子

48kg級

優勝 牧園 羽菜(藤枝順心)

52kg級

優勝 小林 佳奈(東海大翔洋)

57kg級

優勝 小山 結愛(藤枝順心)

63kg級

優勝 永田りん子(東海大翔洋)

無差別級

優勝 中道 咲桜(東海大翔洋)

以上の選手は全国大会に出場する。

〈全国大会日程〉

令和5年3月20日(月)

日本武道館

第45回全国高等学校柔道選手権大会静岡県予選大会(男女団体戦)

令和5年1月28日(土)

静岡県武道館

・男子

優勝 加藤学園

・女子
優勝 藤枝順心

以上の学校は全国大会に出場する。

〈全国大会日程〉

令和5年3月21日(火・祝)

日本武道館

【ジュニア】

令和4年度静岡県ジュニア柔道体重別選手権大会

令和4年6月11日(土)

静岡県武道館

・男子個人戦

60kg級

1位 内山 絢月(静岡産業大学)

66kg級

1位 青山 彰剛(静岡産業大学)

73kg級

1位 長澤 拓海(静岡学園高)

81kg級

1位 板東 新(加藤学園高)

90kg級

1位 市川 丸(日大三島高)

100kg級

1位 沖山 智(静岡学園高)

100kg超級

1位 岡本 剛道(加藤学園高)

●女子個人戦

48kg級

1位 牧園 羽菜(藤枝順心高)

52kg級

1位 山本 あみ(加藤学園高)

57kg級

1位 小山 結愛(藤枝順心高)

63kg級

1位 近藤 小晴(藤枝順心高)

70kg級
1位 安竹 克海(東海大翔洋高)

78kg級
1位 中道 咲桜(東海大翔洋高)

78kg超級
1位 渡邊 美海(神戸館)

2022年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会

令和4年9月10日(土)・11日(日)

埼玉県立武道館

●男子100kg級

沖山 智(静岡学園高) 2回戦敗退

●女子48kg級

牧園 羽菜(藤枝順心高) 1回戦敗退

●女子63kg級

近藤 小晴(藤枝順心高) 2回戦敗退

●女子70kg級

安竹 克海(東海大翔洋高) 2回戦敗退

【一般】

令和4年度全日本柔道選手権大会・第37回皇后盃全日本女子柔道選手権大会東海地区予選

令和4年3月6日(日)

大垣市武道館

●男子

小林 悠輔(南渡邊電設) 1位

米山 竜生(静岡県警察) 3位

●女子

小林 美咲(静岡県警察) 3位

令和4年度全日本柔道選手権大会

令和4年4月29日(金・祝)

日本武道館

小林 悠輔(南渡邊電設) 2回戦敗退

令和4年 第22回東海柔道形競技大会

令和4年5月5日(木・祝)

大垣市武道館

●投の形

正治 和也

●固の形

森田 賢一 2位

●極の形

猪又 功 3位

●柔の形

鈴木 慎一 3位

●講道館護身術

鈴木 清仁 3位

●五の形

曾根 由多 3位

●古式の形

長橋 正宏 3位

●男子個人戦

小笠原 淳 2位

●女子

若杉 文太(浜置潮道クラブ) 3位

松坂 樹(静岡県警察) 2位

米山 竜生(静岡県警察) 2位

●男子個人戦

芹沢 翔哉(静岡県警察) 1位

●女子個人戦

多田 陽平(静岡県警察) 1位

●女子個人戦

齋藤 光星(静岡県警察) 1位

●女子個人戦

米山 竜生(静岡県警察) 1位

●女子個人戦

齋藤 光星(静岡県警察) 1位

●女子個人戦

小林 美咲(静岡県警察) 1位

●女子個人戦

安竹真利奈(柔好会) 1位

令和4年度全国警察柔道大会

令和4年10月12日(水)

警視庁術科センター

●第3部優勝 静岡県警察

令和4年度全国警察柔道選手権大会

令和4年12月5日(月)・6日(火)

警察大学校

●男子90kg級

齋藤 光星(静岡県警) 5位

全日本柔道選手権大会・全日本女子柔道選手権大会 静岡県予選会

令和5年1月29日(日)

静岡県武道館

●男子

優勝 米山 竜生(静岡県警察)

2位 松坂 樹(静岡県警察)

3位 若杉 文太(浜置潮道クラブ)

●女子

優勝 本郷 安季(株式会社イカイ)

2位 八道さくら(淑徳大学)

3位 瀬川 侑希(静岡県警察)

男女それぞれ上位2名が全日本選手権大会東海予選に出場する。



全日本小学生柔道育成プロジェクト2022

令和4年8月28日(日) 横浜市武道館

全国小学生学年別柔道大会が廃止となり、代替イベントとして本年度初めて開催された「全日本小学生育成プロジェクト2022」に、静岡県チームの代表者として参加された渡部成也先生にレポートしていただいた。

「全日本小学生柔道育成プロジェクト2022」に参加して

静岡県警察 渡部成也

令和4年8月28日(日)、全日本小学生育成プロジェクト2022が、主催・全日本柔道連盟(全柔連)等のもと、神奈川県横浜市武道館にて行われた。

令和4年3月18日、全柔連は行き過ぎた勝利至上主義等への懸念と柔道の原点回帰の必要性から、全国小学生学年別柔道大会の廃止を発表し、本プロジェクトはその代替行事となる。

本県からは、渡部龍ノ臣(静岡県柔道クラブ)、横野慶多(清水柔道倶楽部)、鈴木楓花(清水町柔道会)、白井悠心(湖西おそんが柔道クラブ)の4名が参加した。当日の流れは以下の通りである。

- 8時00分 開場
- 8時40分 大塚製薬による水

分補給動画

- 9時00分 開会式
- ・講話・井上康生

(全柔連フランディング戦略推進特別委員会委員長)

- ・講習「国内における少年大会特別規定」
- 大迫明伸

(全柔連審判委員会委員長)

- 9時30分 準備運動・受身・打込み

- 10時30分 練習試合(8試合場に分かれて実施)

- 11時40分 柔道教室「井上康生・谷本歩実」

- 13時00分 アクティブ・チャイルド・プログラム

- 13時40分 開会式「修了証授与」
- 13時50分 閉会

開場前から多くの人達が列を作って待機しており、開場後、参加者は受付で検温と健康記録表の提出を済ませ、3階の観客席へ移動した。アリーナには試合場が8面あり、全国規模のイベントに相応しい印象を受けた。

開会式から予定通り進められ、井上康生氏の講話では「失敗を恐れずに挑戦すること・相手への感謝を忘れないこと」など



のメッセージが伝えられ、選手達は目を輝かせながら聞いていた。

10時半頃からは、8試合場に分かれ練習試合が開始された。

44都道府県から選出された45チーム(神奈川県は開催県のため2チーム)、1人2試合が保証され試合を終えた選手は2名は、審判委員席で、全国大会等で活躍する審判員と他の試合を観戦しながら、審判規定の解説を受けるなど、新たな取り組みを設けたことは、選手たちは勿論、我々指導者も今後の参考となった。

その後の、井上氏の講習会では、大内刈を中心に、釣り手や足捌きといった基本の大切さと共に、「人にどう思われるかを恐れず、自分がわからないことは積極的に確かめよう」と、自分から学ぶ姿勢を持つよう呼びかけていた。

谷本氏の講習会では、寝技の必要性や面白さについて説明し、実演を交えて「足を絡んだ相手は安心するし、大きく動けなくなるから逆にチャンス。こ

うやれば簡単に足を抜いて抑え込みにいけるよ」など楽しそうに繰り返し練習していた。

最後に、富田寿人氏による、アクティブ・チャイルド・プログラムが、子供たち全員で行われた。初めにグループ作りが行われ、畳の上を自由に移動しながら富田氏が言った唐物名の音の数と同じ人数のグループを作った。禁止事項は男子だけ、女子だけにならないこと、そして、同じ都道府県の人と組まないことであった。都道府県や男女の枠を超えたグループができた後は、鬼ごっこや、しゃがんで足首を掴んだ状態での相撲などがテンポよく行われ、人間知恵の輪にも挑戦し、すべてのプログラムが終了した。

本県4名の選手達は、全国の柔道仲間と交流する機会となり、また、我々指導者にとっても、今回紹介された多様なプログラムは、今後の参考となった。今回のイベントに参加した渡部龍ノ臣選手は、「全国大会が廃止となり正直、残念ではありましたが、このような代替イベントを開催していただき、勉強になり、思い出となりました。中学生になったら全国大会に出場したい気持ちが更に強くなった。」と語っていた。



本イベントに参加して感じたことは、このような全国的なイベントは柔道発展のためには今後にも必要ではないかと思う。指導者及び子供たちが出場する試合に勝ちたいと思うことは自然であると思うが、勝利至上主義の問題点を指導者はしっかりと認識し、「ただ勝てばよい」という貧しい価値観を植え付けたり強要することは、いけないのではないかと改めて感じた。

本来の柔道は人間教育であると言われていたが、我々指導者が原点回帰し、1人でも多く社会に貢献できる人材を育てていくことが、今後の柔道発展のためには必要ではないかと考える。

新人選手紹介コーナー

今年度も多くの選手がこのコーナーで紹介できることをうれしく思います。これもひとえに選手の頑張り、指導者並びに保護者の皆様方のご支援のたまものと感じております。今後ともどうかよろしくようお願い申し上げます。

高田 博文先生

(静岡学園中学校柔道部コーチ)



「全中を振り返って」

8月22日〜25日、全国中学校柔道大会に静岡県代表として出場して参りました。大会2日目に男子団体戦が行われ、予選リーグを突破し準々決勝戦をかけた兵庫県代表の小野中学と対戦しました。1ー1の代表戦の末、敗れてしまいました。全国中学校柔道大会で勝利する難しさや厳しさを痛感し、生徒達と悔し涙を飲みました。今年のチームは柔道に対して探究心や研究心があり、さらには学業においても決して手を抜かず、何事にも懸命に取り組みむ姿が印象的でありました。だからこそ、勝たせてあげたく、無念でした。団体戦でのショックや悔しさが残るなか気持ち切り替え、挑んだ個人戦で、2名の生徒が粘り強さと意地を見せ、3位入賞を果たしました。

平日頃から生徒達のサポートや応援をしてくださっている多くの関係者の皆様方に熱く御礼申し上げます。これからも一人一人に寄り添い、細かく丁寧なコーチングを続け、日々精進して参ります。

門倉 寛太選手

(静岡学園中学校3年)

第53回全国中学校柔道大会男子66kg級 第3位

「全中を振り返って」
今回の大会が個人では初めて



の全国大会だったので自分の力をすべて発揮できるように試合に臨みました。初戦は緊張からおもうように動きができませんでしたが、2回戦からは少しずつ緊張がほぐれ、自分から技をかけることを意識し、粘り強く戦い勝ちきることができました。準決勝では相手の勢いにおされ、負けてしまいました。3位という結果で終わってしまい、とても悔しかったです。

今回の大会ではたくさん課題が見つかりました。特に立技で一本をとりきることです。初戦では抑え込みでの技あり勝ちで、2回戦以降は指導差での勝ちであり、投げて勝つということができませんでした。これからひとつひとつの課題に前向きに取り組み、練習に励んでいきたいです。高校ではもっといい結果を残せるように頑張りたいです。

石井 克明選手

(静岡学園中学校3年)

第53回全国中学校柔道大会男子90kg級 第3位

「全中を振り返って」



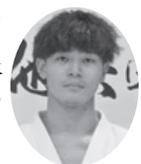
今回の全国大会では、個人戦では3位、団体戦ではベスト16という結果でした。高校生とやっていますが、90kg級だと自分と力も体格も同じような選手が多かったので苦戦を強いられまし

た。1回戦から大外刈りで技有りを取られてしまい、焦りました。しかし、ここで緊張が少し解けたので、慌てずに指導3を取り反則勝ちすることができました。ここから準々決勝までは落ち着いた試合ができました。準決勝では、体力面で負け、延長戦で投げられてしまいました。昨年出場した全中では個人戦でベスト8という結果でした。それよりも高い順位だったので嬉しく思います。ですが、目標である日本一を達成できなくて悔しい気持ちもあります。高校では、中学では成し遂げることができなかった個人と団体での全国制覇をするために、日々精進し、感謝の気持ちを忘れずに、練習に励みたいと思います。

村松 駿選手

(三島長陵高校4年)

令和4年度全国定時制通信制総合体育大会65kg級 第2位



中学の頃、柔道部顧問だった教頭先生に誘われて柔道を始めた」と語り出してくれた村松さん。当時の思い出として、いわゆる「1分稽古」と呼ばれる追い込みの稽古がきつかったそうです。しかしそうした厳しい稽古に耐えることができた精神面があったからこそ今回の結果だったのではないかと話してくれました。全国大会は初めての出場とのことですが、厳しい組み手からの豪快な内股や足技

を駆使して決勝戦まで勝ち進むことができたそうです。「全国大会を楽しみたい」と、どこまでも爽やかに、そして穏やかな表情で語る村松さんでした。

中山 晟汰選手

(浜松工業4年)

令和4年度全国定時制通信制総合体育大会75kg級 第3位



「体型にコンプレックスがあったのと、一つ上の兄の影響で」と、柔道を始めたきっかけを話してくれた中山さん。小学5年生から始め、中学・高校と続けてきたそうです。全国大会への参加は今回が2度目であり、「最後の全国大会だから」とモチベーションを高めることに注力したそうです。3位という結果には「自分がやってきたことを信じてここまでこれたので後悔はありません。」と力強く語ってくれました。話を伺っている時も常に相手に気遣いを怠らない好青年といった印象を受けました。

顧問の稲葉先生や応援に駆けつけた教頭先生からは、「生徒会長としても頑張ってくれてい

て、毎日の挨拶運動も欠かさな
い」とのことでした。今後も柔
道は続けていきたいとのこと
で、「今回の結果が今までお世
話になった方々への恩返しにな
れば嬉しい」とも語ってくれま
した。

鈴木華選手

(鹿島浜松1年)
令和4年度全国定時制通信制総
合体育大会63kg超級 第3位



「護身術をか
ねて、友人と一
緒に中学1年生
から始めまし
た。」と柔道を始めたきつかけ
を話し始めた鈴木さん。中学校
に部活動として柔道部がなかつ
たため、高山柔道塾で稽古に励
んでいたそうです。「月次試合
や昇段審査になるとなかなか勝
つことができず、つらかったで
す。」と言いつつ、「それでも中
学2年の後半から少しづつ勝つ
ことができるようになってきた
ので頑張ろうと思いました。」
と語ってくれました。試合で勝
てない時ほどつらいことはな
かったのですが、先生に励まし
られて続けることができましたと
振り返ってくれました。今回の
全国大会では「大外刈りや内股
で相手を投げたり、投げきれな
くても相手を崩して抑え込んで
勝つこと」を意識していたとの
ことです。今後も柔道をつけ、
来年以降も全国大会に出場して
さらによい結果を出していきたい
と意気込みを語ってくれまし
た。

Q & A

Pick Up

令和四年度全国高等学校総合体育大会
柔道競技大会 男子団体の部 三位
【メンバー】奥大地選手・内山久羽君
選手・倉持光陽選手・岡本剛道
選手・福田宏選手・坂東新選手



加藤学園高校 監督
岡本謙治先生に伺いま
した。

Q、総体を振り返って、特に評価した
ことは？

出場する予定ではなかった選手が出
ても、しっかり仕事を果たしてきたこ
とです。なかなかメンバーが固定でき
ず、怪人も多く出ました。一人ひと
りが、自分が出るんだという意識を
持っていたことが大きいですね。普段
からレギュラー争いが熾烈だったこと
が、功を奏したのかもしれないです。
Q、試合当日、選手をどのように鼓舞
されましたか？

とにかく、試合会場ではずっと一緒
に居ました。また、現地に入ってから
毎日頻繁にミーティングを開きまし
た。まず、私と選手で話し合います。
ここで選手から意見が挙がったことも
あります。その後、選手のみでも長い
こと話し合いをしていました。選手同
士のミーティングは、この代が一年生
の頃からなるべくやるようにしていま
す。

Q、チーム作りで意識されたことは？

よく言われますが、まずは人づく
り。基本的な生活習慣です。柔道で叱
ることはあまりありませんが、そこは
うるさく言います。本校には、公立中
学や町道場で頑張ってきた、県の二、
三番手という選手たちが、静岡を勝ち
抜きたいと集まってきました。自ずと柔
道への意識が高い。柔道自体のことま
り。静岡は非常にレベルの高い県だ
です。

と、私は考えています。毎年のように
優勝チームが入れ替わってきた。この
静岡を勝ち抜くためには、全国で勝て
るチーム作りが必須です。意識を高く
保って、レベルを上げていかななくては
いけません。
Q、新しいチームの特徴と、今後の目
標は？

まだまだまわりはありません。ただ上
の代と同じようにやっても、良いチー
ムはできませんから、模索中です。全
国高校選手権団体の組み合わせが出た
ら、今後の指針も決まってくると思
います。
令和四年度全国高等学校総合体育大会
柔道競技大会 男子81kg級 三位



加藤学園高校 板東新
選手に伺いました。

Q、全国大会に向けて、何を大切に練
習されましたか？

常に実戦を意識することです。ただ
きつだけの練習にしないように、自
分なりに考えて練習していました。
Q、当日、どんな山場があり、どのよ
うに乗り切りましたか？

前日、前々日の団体戦と合わせて、
三日間試合に出いたので、正直かな
りの疲労感がありました。ただ、会場
に慣れていたのも、リラククスして試
合に臨むことはできました。三回戦で
ゴールデンスコアに突入し、心が折れ
そうでしたが、体力と気力で何とか乗
り切ることができました。なかなか攻
めきれず厳しい試合でしたが、集中力
を切らさずに戦えました。

Q、ご自身の持ち味は何ですか？

試合でも実力を発揮できることだと
思います。総体では、むしろ実力以上
の動きができた気がします。だからこ
そ、前に述べた山場を乗り越えること
ができたと思います。
Q、3位入賞という結果を、どう受け
止めていらっしゃいますか？

私の中学時代の戦績は、県大会三位
でした。信じられないというのが本心
です。正直、実力以上の結果が出せた
と考えています。
Q、今後、どのように柔道に取り組ま
れますか？

大学でも柔道が続けます。大学では
日本一になれるよう、これまで以上に
自分の柔道に向き合っていきたいです。
令和四年度全国高等学校総合体育大会
柔道競技大会 男子100kg超級 三位



加藤学園高校 岡本剛
道選手に伺いました。

Q、全国大会に向けて、何を大切に練
習されましたか？

「チームで頑張る」ということで
す。キャプテンとして、後姿を見せて
皆を引っ張れるようにという意識で練
習していました。
Q、当日、どんな山場があり、どのよ
うに乗り切りましたか？

準々決勝が山場でした。ゴールデン
スコアに入ったとき、勝つんだ、思い
切りやるんだ、という二つの気持ち
が出てきました。これが、思い切りよく
技を掛けたり、掛けきつたりするこ
とに繋がりました。
Q、ご自身の持ち味は何ですか？

引手と釣手、しっかりと二つ持って戦
うことです。一、二回戦で流れを作る
ことが大切でした。この二戦を一本で
決められたのは、二つ持って最後まで
離さなかったからです。やってきて良
かったと思います。
Q、3位入賞という結果を、どう受け
止めていらっしゃいますか？

負けた直後は悔しかったです。た
だ、初めて全国大会に出て、三位入
賞。後からじわじわと、嬉しい気持ち
が出てきました。
Q、今後、どのように柔道に取り組ま
れますか？

日の丸を背負うような選手になりたい
です。
第五十三回全国中学校柔道大会
女子70kg超級 三位



三島市立中郷中学校
渡邊美海選手に伺いま
した。

Q、全国大会に向けて、何を大切に練
習されましたか？

練習できる環境を、当たり前だと思
わないことです。柔道できる環境や、
それを与えてくれる周囲の人々に感謝
して、「結果で恩返し」と思って練習
しています。
Q、当日、どんな山場があり、どのよ
うに乗り切りましたか？

周りに流されて緊張しないようにす
るのが大変でした。小学生のときにも
全国に出場していて、厳しさは知って
いるつもりでしたが、試合前に対戦相
手を見てしまうと、やはり緊張してし
まいそうでした。ですから、敢えて周
りを見ずに、(この会場で自分が一番
強いんだ)と自分に言い聞かせていま
した。
Q、ご自身の持ち味は何ですか？

体格もそうなのですが、同じ体形の
選手にはなかなかない、柔軟性が武器
です。体が柔らかいので、簡単には投
げられないのが持ち味だと思います。
ストレッチと、練習の始めと終わりに
必ず壁打ち込みをして、柔軟性を保つ
ています。
Q、3位入賞という結果を、どう受け
止めていらっしゃいますか？

自分でもここまで出来とは思わな
かったので、嬉しく思います。ただ、
満足はできません。
Q、今後、どのように柔道に取り組ま
れますか？

今まで通り、柔道に取り組める環境
を当たり前とは思わずに、稽古をし
ます。日本一という目標は変わりませ
ん。



伊豆長岡柔道会

- ② 伊豆の国市南江間 2125-1 伊豆の国市長岡総合体育館柔道場
- ③ 〒410-2201 伊豆の国市古奈239-1 長岡接骨院
- ④ 岩澤勇治
- ⑤ 幼児から一般まで約30名

⑥道場紹介
昭和五十二年に創立。旧伊豆長岡町の廃業ホテル跡地に道場を開き、その後長岡南小学校の講堂に移転し、現在は伊豆の国市長岡総合体育館柔道場で活動しています。

これまで全国少年柔道大会には通算五回出場という実績を残し、数多くの小・中・高校生の全国大会出場選手を輩出してきました。卒業生の多くは、現在も高校・大学柔道の監督や県警など多方面で活躍し、また当柔道会をはじめ県下複数の道場の指導者として普及活動に当たっています。

一昨年開催された東京五輪で、モンゴル代表選手の事前合宿が当道場で行われたことを期に友好関係ができ、親善の少年柔道大会を数回開催しました。柔道競技を通して、国際交流にも寄与することができています。現在は少子化が進み、子供たちの運動離れもあり、以前に比べ少人数での活動になっておりま

県内各地でがんばっている「道場」を各地区2道場ずつ紹介します。

道場紹介

- ①名称
- ②住所(練習場所)
- ③連絡先
- ④代表者氏名
- ⑤所属人数



大仁柔道会 / チビッ子親子柔道教室

- ② 大仁中学校 / 伊豆の国市三福1276-3 葦山高校 / 伊豆の国市葦山葦山229
- ③ 伊豆の国市南江間 1211-2(菊池)
- ④ 菊池 傑
- ⑤ 幼児 10名、小学生 20名、中学生 7名、高校生 3名、大学生 2名、社会人 5名、指導者 11名

す。新型コロナウイルス感染症の蔓延もあり、稽古日も週四回から週二回火・金(七時〜九時)に縮小しています。

今後は、以前のように活発に稽古ができることを願うとともに、嘉納師範がいう自他共栄の精神を理念に掲げ、活動していきたいと思っています。

⑥道場紹介
大仁柔道会は、故・望月映英先生が昭和二十五年より大仁警察署の道場にて大仁高校の男子生徒を指導したことをきっかけに、時代背景を受けて昭和二十九年九月より創設いたしました。発足時は、会員総数三十名位で週二回、会費一ヵ月一〇〇円の時代だったと聞いております。その後、田方地区に道場がなく、大仁柔道会に百人近くの小学生が集まったそうです。

現在、(火・木・土)十九時〜二十一時の稽古です。少子高齢化時代を受けて会員数も減っています。どの様に柔道の教えを普及し活動していくかを考え、毎週水曜日、家族で楽しみながら体づくりをする「チビッ子親子柔道教室」を開催しています。また、地域貢献活動として、月に一度の「転び方教室」にて礼法、受身と座学も取り入れています。

指導者の昇段や育成、中学生と活動地域移行に向けて、中学生と一般の稽古日を企画し他地域の中学生とも交流を行っております。

来年度、大仁柔道会は創設七〇周年を迎えます。今後も地域での活動を通して、「嘉納治五郎師範遺訓」を伝えながら日々の稽古に精進し、皆さまと共に交流しながら切磋琢磨していきたいと思っています。

⑥道場紹介
当会は令和元年に発足した駆け出しの道場です。静岡市立高松中学校の柔道場をお借りして基本的に毎週月・水・土と3回、小学生は19:00〜20:00の1時間、中学生以上は19:00〜21:00の2時間稽古しています。当会は小学生から高齢者まで、初心者的一般男性や有段者の一般女性も複数名所属してお

駿河柔心会

- ② 〒422-8033 静岡市駿河区登呂4丁目6-1 静岡市立高松中学校 柔道場
- ③ 〒422-8076 静岡市駿河区八幡三丁目18-19 090-4089-1935
- ④ 植田 秀
- ⑤ 小学生4名、中学生1名、大学・専門学校生5名、社会人37名



り、昇段を目指す人、指導者を
目指す人、また運動不足解消や
体力維持を目的とする人など、
それぞれのレベル、それぞれの
目的のためにマイペースで柔道
を楽しんでいます。若い柔道家
も多く、毎回活気に溢れていま
す。現在小中学生の人数は多く
はありませんが「怪我をしない
させない柔道」をモットーに、

今後徐々に増やしていけたらと
思っております。
当会のブログにて練習風景の
写真や動画をご覧いただけます。
もちろんホームページも随
時更新しておりますので、是非
「駿河柔心会」で検索してみ
てください。体験や出稽古のお申
込みも随時受け付けております。
E-Mail: s.judokids@yahoo.co.jp

滝井道場

- ②静岡市駿河区
丸子3丁目6-7
- ③054-667-1878
- ④熊谷 幸洋
- ⑤小学生9人 一般10人

⑥道場紹介

滝井道場は、故瀧井康次郎先
生により昭和43年から「勇猛精
進」を掲げ始めました。長年
にわたり地域に密着した活動を
し、多くの有名な選手を輩出
しております。また形の練習のた
め訪れる方が多く、形の普及活
動をしております。稽古は毎週
火曜日・金曜日の18時30分から
19時30分まで行っており、礼
法・受け身など基本練習を中心
とし、また人間形成を大切にし
ていきます。小さい道場ですが、
柔道好きな指導者達と楽しく稽



古をしております。これからも
柔道を通して人との関わりを大
切にしながら活動してまいりま
すので、どうぞよろしくお願
いいたします。

笠井柔道館

- ②浜松市東区中郡町72
- ③〒431-3107 浜松市
東区笠井町1133-3
053-433-9167
- ④坪山 龍夫
- ⑤児童2名 小学生15名
中学生15名 社会人15名



⑥道場紹介

昭和62年に浜松市東区に設立
し、今年で35周年を迎えました。
現在では近隣の小・中学校から
児童18名・中学生20名、一般（O
B）15名が所属しています。
毎週水・土曜日19:00～21:
00約2時間、木曜日には一般を
中心に約2時間稽古をしており
ます。また日曜日には6:30～
8:30までランニングを中心と
した早朝トレーニングも行って

います。
道場訓は「勇往邁進」。目標
に向かって恐れず前に進んで欲
しいという思いで、この言葉を
選びました。
練習中は上級生が下級生の面
倒をみるのが伝統で、怪我なく
稽古ができるよう子供たち自身
が常に気を配っています。
柔道を通じて素直さを身につ
け、成長し、中学・高校でも柔

袋井スポーツ協会 柔道部

- ②437-0064 袋井中学
校武道場437-0061
さわやかアリーナ2階
- ③090-4255-6053
- ④大石夕貴
- ⑤児童2名 小学生14名
中学生6名

⑥道場紹介

袋井スポーツ協会柔道部は、
袋井中学校で毎週、月、木、
金、土曜日。さわやかアリーナ
で水曜日、活動をしています。
練習の曜日が多いため、他の習
い事とかぶっていても来られる曜
日だけ参加することも可能です。
試合で勝つことも大切ですが、
仲間同士や先生との絆、厳
しい練習をやり抜く強い気持
ち、自分で考え道を切り開いて
前に進む勇氣など、勝つこと以
上に大切なことを自分で見つけ

道を続け、生涯スポーツとして
柔道を楽しんで欲しいという願
いがあります。
道場では柔道以外にもレスリ
ング・体操教室も行っていて、
地域の子供たちの体力向上の促
進にも一役買っています。
これからも笠井柔道館の子供
たちが色々なことにチャレンジ
し、道を切り開いていくことを
見守っていきたいと思います。

てほしいと思っています。
またイベントも指導者と保護
者が一致団結し、力を入れて子供
たちのために盛り上げています。
今後も指導者、生徒、保護者
みんなで頑張っていきたいと
思っていますので、よろしくお
願いたします。



◆マルちゃん浜松柔道教室開催



マルちゃん浜松柔道教室の講師として東海大学柔道部師範の竹内徹氏、東京五輪100kg級金メダリストのウルフ・アロ

8月28日、浜北総合体育館（サーラグリーンアリーナ）にてマルちゃん浜松柔道教室が開催された。今回の少年柔道教室は遠鉄ストア株式会社特別協賛のもとで開催され、東洋水産株式会社との協力を得て実施された。講師として東海大学柔道部師範の竹内徹氏、東京五輪100kg級金メダリストのウルフ・アロ

た。県西部の小中学生約300名が受講し、熱心に実技指導や講話に聞き入っていた。竹内氏やウルフ氏、受けとして参加した宇田川氏のわかりやすい説明や軽妙な語り口に引き込まれ、終始和やかな雰囲気の中に柔道教室を終えることとなった。受講生に向けてウルフ氏は、「勝利至上主義に対する批判が叫ばれているが、私は競技をする以上は常に勝ちたいと思って稽古を



◆令和4年度安全講習会・審判講習会・Cライセンス認定講習会開催

東部地区並びに西部地区は6月26日(日)、中部地区は8月14日(日)に開催された。今年度より事前にネットでの講習申し込みの登録を行い、事務手続きや指導者資格や審判資格更新の効率化を図ることが試みられた。あわせて今回の講習会の内容は、事前に全柔連に提出した計画書に



基づいて実施されているとのことであった。今回、筆者は中部地区の講習会に参加したが、百名近くの参加者が集まっていた。中には他地区で受講できなかった人々もいたようである。内容は「指導者の倫理」「コンプライアンスについて」「日本文化と柔道」「コーチングの基本」「審判法」の4つの講座が展開された。動画などを用い、指導者としての心構え、特にアンガーマネジメントについての講義は、受講者の興味をそそるものであった。こうした講習内容を、日々の指導で実践していくことの重要性を受講者は大いに感じることが思われる。非常に有意義な講習会で

あった。〔写真は一部西部地区似て開催された講習会のものを含む〕新たに審判Cライセンスを取得する方は、今年度より学科試験と実技試験が別途課されることとなっている。当日会場にいらっしゃった審判部の望月優映先生は、「現時点で県全体で50名ほどがCライセンス取得の申請をしている。審判としての技術向上は、多くの試合を審判することに尽きる。単にライセンスを保有しているだけでは意味がない。」と述べていた。また「審判法」講師を務めた渡部成也先生も「試合審判規定と最新のルール、そして講習会に多く参加して、審判技術の向上に勤めていただきたい。」と語っていらつしやった。

訃報

柳澤 文之様 五段（元静岡県立浜松工業高等学校副校長）
令和4年1月7日

永田 正義様 四段（元東部支部役員・長泉柔道会会長）
令和4年1月11日 80歳にて御逝去

望月 秋男様 七段（元中部支部少年柔道連盟会長・元静岡柔道クラブ会長）
令和4年5月4日 84歳にて御逝去

金子 厚幸様 七段（元西部支部役員・練武館）
令和4年6月2日 71歳にて御逝去

加藤 裕康様 五段（元東部支部幹事・清水町柔道会）
令和4年12月2日 75歳にて御逝去

柔道発展のために尽力され、多大な功績を残された皆さまに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

■今年も「柔道しずおか」を発行できることを嬉しく思います。これもひとえに取材や原稿依頼にご協力いただいた皆様のおかげと感謝しております。この場をお借りして御礼申し上げます。さて、コロナ禍にあつて思うように活動できなかった時期もようやく終わりを迎えようとしています。「日常」が戻ってくることはありがたいものですが、少なからず以前とは異なる

る形になるのでは？ という懸念もあります。■松尾芭蕉翁は「不易流行」を唱えました。変えなければならぬもの、変えてはいけないものの両方が存在するというのですが、柔道もあらゆる意味で「不易流行」であるべきではないでしょうか。■多くの方々の「知」を集積し、優れたいリーダーのもと、あるべき方向へと導き、そこから最善の一手を熟議の上で決めていく。そのような組織でありたいと思います。

広報委員長 増尾清己